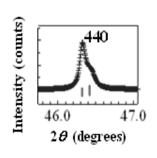
二重ペロブスカイト型 Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O₆₋₅ の結晶構造と酸化 物イオン拡散経路

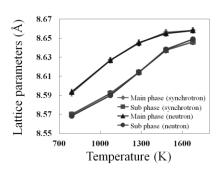
Crystal structure and the diffusion path of oxide ions of the ionic conductor Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6-δ}

〇尾本和樹¹,加藤浩輝¹,八島正知^{1,2},Paul J. Saines³,Brendan J. Kennedy³ 1 東工大・院総理工 2 東工大・院理工 3 シドニー大・化学科

二重ペロブスカイト型酸化物 A₂BBO₆ は、イオン伝導性などの多彩な 物性を示す。A はサイズが大きい陽イオン、B と B はサイズが比較的小 さな陽イオンである。本研究では Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6-δ}の放射光および中 性子粉末回折測定を行い、Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6-δ}の結晶構造、および高温 における構造変化を明らかにすることを目的とする。Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O₆₋₅ の放射光粉末回折測定を PF の BL-4B2に設置された多連装粉末回折計に より実施し、中性子粉末回折測定は JAEA の HERMES で行なった。 測定 した粉末回折データをリートベルト法(RIETAN-FP)により解析した。790 K での放射光回折パターンにおいて 2θ = 46.5°付近の 440 反射の肩は Fm3m の単相で説明がつかず、2 つの Fm3m 相の共存を示している (図 1 の x)。リートベルト解析は空間群 Fm3m の 2 相 に基づいて行い、観測デー タと計算強度はよく一致した。 $Ba_2NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6-\delta}$ は二重ペロブスカイ ト型構造を有し、Nd_{0.915}Sn_{0.051}Sb_{0.034}O_{6-δ}(BO₆) 八面体(黒色)および Nd_{0.085}Sn_{0.536}Sb_{0.379}O₆ (B'O₆) (灰色)八面体が a₀軸, b₀軸および c₀軸に沿っ て交互に規則配列している(図 2)。ここで下付添え字の p は擬ペロブスカ イト格子を示す。790 K より高い温度域の格子定数の温度依存性を図 3 に示す。放射光 X 線粉末回折によって得られた格子定数と中性子粉末回 折実験によって得られた格子定数は標準偏差 $\pm 3\sigma$ の範囲で一致した。







(790 K)の一部

図 1. $Ba_2NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6-\delta}$ 図 2. $Nd_{0.915}Sn_{0.051}Sb_{0.034}O_6(BO_6)(黒色)$ の放射光回折パターン および Nd_{0.085}Sn_{0.536}Sb_{0.379}O₆ (B'O₆) (灰 色)八面体を使って描いた Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O₆₋₈の結晶構造(297 K)

 \boxtimes 3. Ba₂NdSn_{0.6}Sb_{0.4}O_{6- δ} \bigcirc 格子定数の温度依存性

記入例

BL-0A

放射光 Synchrotron Radiation

表題は必ず英語表記も記入

筑波太郎¹、筑波次郎² 1 KEK-放射光、2 KEK-放射光Ⅱ

本文(14 ポイント)